

あったかいが いいね・・・

# シャローム横浜通信 3月号



2019年(平成31年) 3月号 (第 223号)

## 「希望のある施設でありたい」

立春を過ぎててもまだまだ寒さの厳しい時期です。皆さまお元氣にお過ごしですか。12月のお便りでも書かせて頂きましたが、この時期はやはり感染症の拡大が一番気になります。例えばインフルエンザは横浜の各地で猛威をふるい、特に体力の落ちた高齢者が多く生活をしておられる施設等においては、玄関に消毒液やマスクを置いて入館の際の衛生管理にご協力を求めているところが多くあるようです。シャローム横浜もこの点については来館されるすべての皆さまにご協力をお願いしております。今のところ当施設では、特養でも在宅サービスでも目立った感染拡大がなく概ね順調です。とはいえ、いっても感染症の怖いところはちょっとした隙に爆発的に広がっていきことです。当施設では医務室を中心にケア部門のスタッフが注意深くご利用者の体調管理に当たり、ハウスキーピング部門が施設全体の細かい衛生管理に努めておりますが、油断することなく継続して参りたいと思います。

シャローム横浜から来館される皆さまへのお願いとしましては、地域においてインフルエンザが拡大している状況から、予防的な意味で特養の入所者との面会を一時的にご遠慮頂いております。これは地域や施設の状況に応じて変更して参りたいと思っておりますので、施設に御用の際はお手数ですが当施設の事務局(045・922・7333)までご連絡頂けると幸いです。

さて、今年元号が改まる年で歴史の変遷を意識する年になりそうです。「温故知新」という言葉があります。個人的にはその意味を「時の流れにある繋がりを受けとめ、いま在ることの意味を確認し、将来に向かって喜びと希望を持つこと」と解釈しています。これからもシャローム横浜は、時代が変わっても変えてはいけないことを見極め、平和に向けて取り組むべきことを希望をもって実践する施設でありたいと思っております。

聖書の言葉「主は言われる、わたしがあなたがたに對して知っている計画はわたしが知っている。それは災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。」(エゼキヤ書 29章 11節)

村本英邦

## 今月のギャラリー 「つばき書道教室」

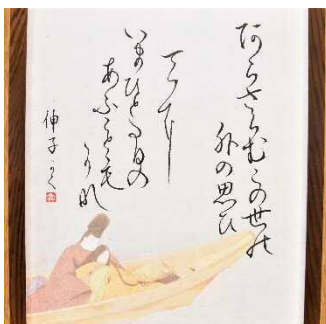
皆様はじめまして、つばき書道教室と申します。若葉台の3-11棟、つばき集会室で、小、中学生を中心に開塾し、25年が経とうとしています。

子供達の日々の上達に励まされ、やりがいを感じながら練習しています。

この度、こちらの素敵なギャラリーをお借りして作品を見ていただく機会を頂きました。

ごゆっくりご覧頂き、ご感想等ございましたらノートにお書き頂ければ幸いです。

つばき書道教室 横山 弘雲



あったかいが いいね

第223号

平成31年2月15日発行  
(毎月1回15日発行)

責任者: 施設長 村本英邦  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町1988  
アドベント福祉会  
シャローム横浜

編集 椎橋・遠藤(裕)・坂本  
☎ 045-922-7333

## お知らせ 医務室より

全国的にインフルエンザが流行しています。インフルエンザは、38度以上の高熱、関節痛、食欲不振、頭痛、全身のだるさなどから始まり、鼻みずや咳、くしゃみなどの症状がみられます。このような症状がある場合は、受診して医師の診断を受けましょう。同居しているご家族がインフルエンザにかかった場合は、感染する可能性が高いので、手

洗いをこまめにする、食事は一緒にしない、換気をする、できるだけ別の部屋ですごす等の工夫が必要です。施設では、「持ち込まない」「ひろげない」を目標に、職員一同気をひきしめて対策にあたっています。皆様には、面会制限等でご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

医務室 品末直美



### 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 予防の基本<sup>※</sup>は、正しい手洗い<sup>※</sup>の習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出たら、マスクを着けるなど、咳エチケット<sup>※</sup>を守り早目に受診しましょう。



- 小学校を中心に学級閉鎖が増し、保育園、病院や高齢者施設等での集団発生も増えています。
- 小児と高齢者の入院患者が増加し、重症肺炎や脳炎が疑われる例も報告されています。



- こんな症状は重症化のサインです。すぐに受診してください。
- ✓ 呼びかけに答えない!
- ✓ 呼吸が早く息苦しい!
- ✓ 胸の痛みが続く!
- ✓ 症状が長引き悪化!



※参考ホームページ ※国立感染症研究所 ※厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

## デイサービス 腹話術の紹介

デイサービスでは人気のあるレクリエーションのひとつです。毎回、タツ君という可愛い男の子と一緒に来てくれます。一たび息が吹き込まれると人形に魂が宿り本当にイキイキとお二人の掛け合いが始まります。皆さんも吸い込まれるようにお子様をみるように御覧になっています。

デイサービス 里見 友己子



## 「愛がなければ騒がしいシンバルと同じ」 第131回 チャレン上前至

その子の名前は「心愛」、それを「みあ」と呼んでいる。もう多くの報道でよく知られている千葉県野田市でおこった父親による児童虐待で死亡した小学校4年生（10歳）の女の子の名前である。両親、特に父親はどんな気持ちでこの子にこういう名前を付けたのだろうか？いや、つけることができたのだろうか？心からの愛、父親にもし、少しでもこうした「愛」があれば、こんな出来事は起こらなかったであろうと思う。

それにしても、児童相談所の関係者を含めて周りの大人は何をしていたのだろうかと思う。子供にとって一番の頼りである児相

を含めて周りの大人から見放され、どこに救いを求めていったら良かったのか、それを思うと胸が痛くなる。いろんな理由、事情はあるかもしれない。そのことも知っておかなければならないと思う。こうした問題を繰り返さないためにもその検証は絶対必要であろう。ただ私達が忘れてならないことは、この子の為に誰も自分の体を張ってまでその命を救おうとした大人が周りにいなかったということである。かく言う私もいざ、その場に出会ったとき、そのような行動が取れるか自信は全くない。ただここからいえる一つのこと、どんなに制度が整い、体制が整ったとしても、その制度、体制に

命を吹き込むのはそこにいる人間であり、そこに「心からの愛」がなければ冷たい制度、体制と墮すことである。その愛を、ある人は使命感といっている。

「もし愛がなければ、私はやまましい鐘や騒がしいようはち（シンバル）と同じである」

1コリント 13章 1節

